

畜産農家への支援について

四竈 英夫



〔質問〕子牛価格の暴落と、飼料代の高騰で畜産農家が窮地に陥っている。

〔答弁〕〔市長〕国際情勢を背景とした飼料価格の高騰と、和牛の消費低迷で農家は大きな打撃を受けていることは認識している。本市としては「畜産生産資材価格高騰対策緊急支援事業」などを実施してきた

が、本年度は国や県からの交付金は見込めない状況である。今後、宮城県市長会を通じて、全国一律の支援制度を講じるよう国や県に対して強力に働きかけていく。

〔質問〕県やJA全農宮城との連携で、低利融資と利子補給等の支援はできないか伺う。

〔答弁〕〔市長〕県の制度資金である農林業災害対策資金に「原油価格・農業資材等物価高騰」「子牛価格下落」を要件に盛り込むことが検討されていることから、注視していきたい。

〔質問〕牛肉の消費拡大の施策を伺う。

〔答弁〕〔市長〕昨年の農業祭で、仙台牛の販売イベントを実施したところ、好評であったことから、今年度も実施し、消費拡大の支援をしていきたい。

が、本年度は国や県からの交付金は見込めない状況である。今後、宮城県市長会を通じて、全国一律の支援制度を講じるよう国や県に対して強力に働きかけていく。

市役所新庁舎の建設について

たい。

〔質問〕本市役所庁舎は昭和48年に建設され、51年が経過し老朽化が進んでいる。

また、保健福祉部、農林課、上下水道事業所、環境課などは本庁舎から離れた建物で業務を行っており、不便を感じる。これらのことから、新庁舎建設構想はあるのか伺う。

〔答弁〕〔市長〕施設設備の老朽化と市民サービス確保のため、庁舎の今後の方向性について検討している。

〔質問〕建設計画はいつ頃か伺う。

〔答弁〕〔市長〕本市行政施設個別施設計画において、令和13年度から令和22年度までの10年間の間に新設する計画としている。

〔質問〕資金計画について伺う。

〔答弁〕〔市長〕積立金と地方債、一般財源で確保する計画としている。

たい。

困難を抱えた子どもたちへの支援施策の推進状況について

村上 由紀



〔質問〕全国的に子どもを取り巻く課題は多様化・複雑化している。子どもたちが生まれ育った環境に左右されることなく、貧困や虐待などが世代を超えて連鎖することのないよう支援を行うことは、子どもたちの生命と将来を守る最優先事項であると考える。

自ら支援を求めることが困難な家庭への対策を伺う。

〔答弁〕〔子育て支援課長〕保健師・助産師・家庭相談員が、母子手帳交付時等に、健康状態、生活状況、メンタルヘルス上の課題や、虐待につながるリスクを確認し、早期に支援につなげている。

〔質問〕子どもを守る地域ネットワーク機能強化事業の事業内容と実績を伺う。

〔答弁〕〔子育て支援課長〕児童虐待等で保護を要する児童、養育支援が必要な児童や保護者に対し、関係する複数機関で援助を行うため、要保護児童対策地域協議会を設置している。会議では虐待ケースの進行管理や情報共有を行い、相互の役割の確認を行いながら、顔の見える関係性を築き、子どもへの最善の利益のため、適切な支援ができるチーム体制の強化に努めている。

令和5年度は、虐待など18世帯34名について協議を行なった。

〔質問〕養育支援訪問事業の詳細を伺う。

〔答弁〕〔健康推進課長〕養育支援が特に必要と

認められる保護者に対し、出産前から家庭訪問を行い、相談や保健指導、育児の助言など必要な支援を行なっている。

実施件数の割合は、令和元年度は16.5%、令和5年度は35.6%と増加しているが、妊娠中から対応していること、少子化により深いモニタリングとなっていることによるものと思われる。

〔質問〕相談事について早期解決を図ることが最も必要と考える。早期解決のための具体的な取り組みを伺う。

〔答弁〕〔子育て支援課長〕支援対象者の状況を深く理解し、ありたい姿に向けての支援の方向性を明確にする。困難を感じた時に助けを求めることができる関係性や、信頼する人ができた実感できる関係を構築し、定期的な連絡を取り、継続的な支援を行なっている。

〔その他の質問〕

◎子ども第三の居場所 「つるいせまち」につるい

二次元コードから各議員の質問動画へアクセスできます。